

技術の継承と発展

—今こそ「技術のハルテック」を—

代表取締役社長

會田 正



わがハルテックは、昭和16年に株式会社春本組とし発足してからも、65年の長きにわたり、鋼橋、鉄骨等の鋼構造物メーカーとして発展してきました。この間、「技術の春本」と自負し、公共の社会基盤整備や民間建築の分野で大きな役割を果たしてきました。

いうまでもなく「ものづくり」に携わる企業にとって、その経験した技術を確実に継承し、さらにこれを発展させていくことがその企業を存続させるための必須要件です。この継承において大切なのは、何といたってもきちんと整理された「記録」を持つこと、すなわち情報の共有化だと思います。プロジェクトに携わった方々の貴重なノウハウが、たんに個人のメモや記憶だけに留まっていたり、折角の資料が分散しては技術の継承にはなりません。

私は当社に入りましてから、ハルテックの技術に関する記録を纏めたものを探したのですが、受注の記録はあるものの、技術分野では専門誌や研究発表会に掲載されたものとパンフレットの類しか見当たりませんでした。私は以前からこの業界の多くの会社が技報や技術レポートを発行していることを知っていましたので、いささか寂しく思っていたところ、当社が1990年と92年に「春本技報VOL.1,2」を発刊していたことを知りました。いまこれを拝見すると、大きな橋梁プロジェクトに参加し始めた当時の社内の熱気がひしひしと伝わってきます。

ご存知のとおり、現在、この業界を取り巻く環境は90年代とは全く様変わりしており、公共投資の急激な減少に加えて、受注システムに関わる厳しい制裁措置を受け、当社も創業以来最大の試練に直面しております。今やこの業界は、コスト競争力と技術力に優れた企業だけが生き残ることが出来るという時代に入ったと覚悟しなければなりません。

このたび、この技報が十数年ぶりに発刊されることは、今の当社にとって極めて大きな意義を持っています。再び「技術のハルテック」を世に打ち出す意気込みを表すことになるからです。

最後に、この技報の取りまとめに努力された皆さんに感謝するとともに、これがとくに若い技術者諸君を奮い立たせる糧となることを念願する次第です。